

港湾空港関係功労者等を表彰！

港湾空港関係功労者表彰及び海をきれいにするための一般協力者表彰

北海道開発局では、港湾空港整備事業の推進を目的として、「北海道開発局港湾空港関係功労者表彰」及び「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」を平成18年から実施しています。

今年度の港湾空港関係功労者表彰は、前岩内町長の上岡雄司氏及び（株）ササキ（稚内市）の佐々木正明代表取締役、また、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰は、稚内のみなとを考える女性ネットワーク（代表 岩本明子氏）に決定し、7月20日及び7月22日に稚内開発建設部と岩内町役場において、それぞれ表彰伝達式が執り行われました。

岩内町で行われた伝達式では、受賞された上岡氏から「16年間の港湾行政を振り返れば、一朝一夕に港湾はできないという想いで港湾を見つめてきた。近年はクルーズ船を利用したインバウンドの増加等、港湾の重要性は増しており、苫小牧港等多くのクルーズ船や貨客船等が入ってきていることなどからも、やっと日の目が当たってきている。」などのお言葉をいただきました。

また、稚内開発建設部で行われた伝達式では、受賞された佐々木氏からは、これまでの港湾等工事の苦労の経緯を振り返り「共に汗を流して働いている社員の尽力があればこそその受賞で深く感謝する。」、稚内のみなとを考える女性ネットワークの岩本代表からは、同ネットワーク立ち上げの経緯とこれまでの活動等を紹介された後、「1年1年積み重ねてきたことが認められたことに感謝。企業や協力団体の皆様にも感謝の気持ちを伝えたい。」と、それぞれ受賞の喜びのお言葉がありました。



（前列中央）上岡前岩内町長



（前列中央左が岩本代表、中央右が佐々木社長）

（港湾計画課）

「海の日」海事関係功労者大臣表彰を伝達

海をきれいにするための一般協力者表彰

国土交通省では、毎年「海の日」に、多年にわたり海事関係事業等に貢献された方々に対して大臣表彰を行っています。

今年度の北海道開発局関係では、「海をきれいにするための一般協力者」として、釧路港内において多年にわたる清掃活動によって港内の環境美化に貢献したことが他の模範となるにふさわしいと認められ、(株)濱谷建設（釧路市港町）が受賞されました。

例年、表彰状の授与は国土交通省本省において行われていますが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、釧路開発建設部において大臣表彰伝達式が、7月27日（月）に執り行われました。

受賞された(株)濱谷建設の濱谷社長からは、「栄誉ある賞を頂き、ありがたい。今後も活動を継続し環境保全に貢献したい。」などのお言葉をいただきました。



表彰状伝達の様子



中央が濱谷社長

(港湾計画課)

港湾管理者による記事投稿を募集します！

今月号では小樽市様から1件（2ページ分）の投稿をいただいております。ありがとうございます。

引き続き、港湾管理者による記事投稿を募集しております。各港湾管理者においてPRしたいこと等あれば、気軽に投稿してください。港湾の秩序ある整備と適正な運営について、引き続きよろしく願いいたします。

港湾管理者専用アドレス

港湾管理者の皆様からの掲載要望やご提案等・その他業務上の疑問等を引き続きお待ちしております。

✉ hkd-ky-kouwan-kougyou@gxb.mlit.go.jp

新日本海フェリー就航50周年

小樽港には、小樽と舞鶴、小樽と新潟を結ぶ新日本海フェリーが就航しておりますが、令和2年は、小樽と本州を結ぶフェリーが就航してから、50周年を迎える記念の年になります。

50年の長きにわたる小樽とフェリーの歴史と、新日本海フェリー(株)が実施する50周年記念事業を紹介します。



(上写真：第一船「すずらん丸」が小樽に初入港した時の様子)

高度経済成長期にあった日本では、昭和39年10月に世界初の高速鉄道である東海道新幹線が開通し、昭和40年7月には明神高速道路の全線開通するなかで、新日本海フェリー(株)は、北海道と日本海沿岸を長距離フェリーで結ぶという「海のバイパス構想」を実現するべく、昭和45年8月4日に第一船「すずらん丸」を、小樽～舞鶴～敦賀間に就航させました。

フェリーの就航実現は、観光交流、商取引の活発化、新規企業の進出など、小樽市の経済に多大な恩恵をもたらしました。

また、平成16年7月には、小樽～舞鶴間に大型高速フェリーが投入され、航路の所要時間が大幅に短縮されたことにより、北海道産生乳輸送の増加をはじめとし、物流に大きな変化を与えるなど、旅客輸送及び貨物輸送において重要な役割を担っています。



(上写真：小樽～舞鶴航路を走る「はまなす」)



新日本海フェリー就航50周年

就航当時は、小樽～敦賀～舞鶴を約32時間かけて運航していましたが、現在は、新潟と舞鶴への二航路それぞれ直行便となり、小樽～新潟を約16時間、小樽～舞鶴を約22時間で運航しており、大幅に時間が短縮されました。



(上写真：小樽～新潟航路を走る「あざれあ」)



(上写真：小樽フェリーターミナル)

フェリーの取扱貨物量は、昭和45年当時は20万トンほどでしたが、現在は1,000万トンを超えており、小樽港における国内輸送の主要航路となっております。

◆寄港地市民割引について◆

フェリー就航50周年を迎え、新日本海フェリー(株)による記念事業として、寄港地在住の市民を対象に「就航50周年寄港地市民割引」が実施されます。

実施期間	9月1日(火)から9月17日(木)、 9月23日(水)から10月31日(土)
対象者	小樽市を含む寄港地に在住の方
割引対象	小樽発着を含む全航路・全客室の大人・小人旅客運賃、 及び乗用車・二輪自動車運賃(運転者が当割引を適用する場合)
割引率	50%

詳細については、新日本海フェリー(株)ホームページをご覧ください。
<http://www.snf.jp/news/detail/3367>

<お問合せ先>

新日本海フェリー(株)小樽本店 TEL: 0134-22-6191

